

平成28年度まちづくり懇談会 住んでよかった、 そんな未来のまちを目指して意見交換

平成28年度まちづくり懇談会が5月28日（土曜日）町民約50人が参加のもと、「イコーゼ！」で行われました。町側から予算と重点事業の説明後、まちづくりについて意見交換を行いました。



環境省の計画によると、今後中間貯蔵施設の整備状況に応じて、約10000袋ずつ年々除去土壌の搬出量を増やしていくとしている。

4件の要望に応えたいと考えている。
職員研修の充実についてどう考えるか
「人材育成基本方針」に基づき行っている。昨年は、協定を結んでいる東邦銀行から講師をお招きして、接遇研修会を開催した。今年度も、町内の企業の方々に講演いただくなどの職員研修のほか、自治大学校などの研修施設に職員を派遣する。さらに役場内研修はもちろん、ふくしま自治研修センターにも積極的に派遣していく。今後も限られた予算の中で効率的な研修を進めていきたい。

新庁舎建設についてどう考えるか

4月に発生した熊本地震を受けて、具体的に庁舎建設を検討していく判断をした。その際には、役場にどのような機能をもたせるか検討が必要である。例えば、駐車場・通信機器の充実、避難所となること、震度7にも耐えられること、自然エネルギーの導入など検討事項がある。今後庁内で勉強会を立ち上げ、町民、専門家の意見を伺いながら、早急に検討していきたい。

「献上桃の郷」商標登録の意義と今後の展望は

献上桃の郷の商標登録の意義は、昨年度まで町が22年連続で、献上桃に選ばれており、さらなるブランド化を図るためである。今後は、上質な桃を選別するなどして、差別化した商品を目指していきたい。また、桃を使った6次化産品も考え、首都圏等に販売していきたい。

現在の除染進捗状況は
現在は工業団地と幹線道路の除染を実施している。
除去土壌等の中間貯蔵施設への搬出見通しは
平成27年度は、大和団地仮置場と北海道仮置場の2箇所から中間貯蔵施設へ搬出した。

介護予防事業の今後の展開は
今年度は「地域で高齢者をつくる」という構想のもと、介護予防に力を入れていきたいと考えている。その一つの施策として、6月10日に介護予防講演会を開催する。また、秋には協議体設置のための学習会等を行う予定であり、これからの展開について、各層の方々と検討していきたい。

スーパリーやなみ（地域住民の協力を得た生活道路の整備）の進捗状況は
町内会から12件の要望が出ており、予算内での程度要望に応じられるか積算をしている状況である。今年度は3

東日本大震災の経験を被災地の復興のために

熊本地震被災地へ町職員を派遣

桑折町では熊本県上益城郡嘉島町へ復興支援のため、6月7日から12日までの6日間、職員1名を現地へ派遣しました。

派遣された佐藤正浩危機管理係長は、り災証明書発行などの総合相談窓口業務および被災地域の公共施設等被害状況調査に従事しました。

桑折町も5年前の東日本大震災では温かいご支援をいただきました。今回の派遣では、被災地が1日でも早く復興できるよう、業務に携わりました。発災から、約2ヶ月を経過することもあって、電気などのライフラインは復旧していましたが、倒壊した家屋も多数あり、未だに多くの住民が避難所生活を続けていました。また、近隣の自治体では、行政施設も大きな被害を受けたため、庁舎機能が分散し、住民応対がスムーズにできない状況がみられ、災害対策拠点としての庁舎の重要性を改めて認識しました。



総務課危機管理係 佐藤正浩係長（写真右）

桑折町放射能対策町民会議

復興を阻む壁について講演

第6回桑折町放射能対策推進町民会議が6月7日、「イコーゼ！」で行われ、約110人が参加しました。はじめに、町から昨年度の事業経過や今年度の予算について説明。その後、河北新報社編集局編集委員の寺島英弥さんより「東日本大震災から5年、復興を阻む壁、どう破る」と題して講演をしていただきました。参加者は写真を見ながら、被災地の実情と模索について理解を深めました。



▲震災関連報道量の変化や風評被害などについてもお話いただきました

町内の全小学生へ配付

学びのスタンダード下敷き

町では、「15歳のめざす姿」の取り組みの一環として、児童一人ひとりが学び方を身に付け、確かな学力を獲得することを願って「桑折町小学校・学びのスタンダード下敷き」を作成し、6月1日に町内の全児童に配付しました。
下敷きは、小学校「低学年用」「中・高学年用」の2種類あり、授業の約束、ノートのとおり方や話し合いの仕方など、それぞれの段階で身に付けるべき「学び方」が示されています。



▲授業において下敷きを用いて、学びを充実させ、中学校の学習に結び付けていきます



01_被災した建物も多数
02_行政施設も被災

